

ゆうあい報 おだぴたる



社会医療法人
祐愛会織田病院 ODA REGIONAL MEDICAL CENTER

発行者 祐愛会織田病院企画室
責任者 織田 正道

『すでに起こった未来、ポストコロナに向けて始動』

― 2023年グループ方針 ―

理事長 織田 正道

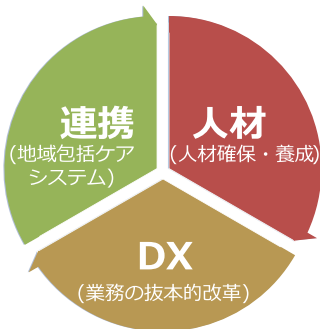
「人口の動向はよほどのことが無い限り、確実な未来である」は、マネジメントの父と云われるP・F・ドラッカーの言葉ですが、まさに日本は、85歳以上年齢人口の急激な増加、それに反して支え手である生産年齢人口の急激な減少がいよいよ顕著になってきました。このような状況の中で、我々が描く2040年における当グループ像を実現するためには、その基礎づくりとして2030年までにグループの横断的取り組みとして求められるのが、

1. 業務の抜本的改革として、医療介護DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進と、バーチャル・メディカルフードセンターなど近未来に向けた組織の再編・再構築。
2. 他の機関に頼らず積極的に人材確保・育成を進めるために、医師臨床研修における現在の協力型から基幹型への移行。さらに、看護師養成として、

看護専門学校（3年コース）の開設。

3. 地域包括ケアシステムを支える「かかりつけ医機能の強化」のための地域連携再構築として、現在の開放型病床登録医の先生方と進める「地域医療連携推進法人」の開設。以上、グループの未来に向けた取り組みを、年度毎に取り入れて着実に前進します。それでは2023年度グループ方針と各分野の目標項目を示します。

2030年までに進めるグループ横断的取り組み



◎グループ方針 Aging in place

「住み慣れた地域で自分らしく最後まで」の実現をめざし、急性期医療から在宅まで、保健・医療・介護の各分野が、一体的に提供できるように全分野にわたる人材育成、DXを推進し、『ポストコロナに向けた『総合ヘルスケアシステム』の構築を図ります。

◎保健分野

いつまでも元気で活躍できるエイジレス社会を築くため、生活習慣病の予防・改善、さらに、口コモティブシンドロームの予防に継続的な取り組みを進めます。また、新型コロナウイルスのワクチン接種など行政との取り組みを強化します。

◎医療分野

織田病院と高島病院との入院医療の機能分化・連携を推進し、急性期・回復期・慢性期機能の垂直連携の強化を図ります。さらに、退院後はケアの継続を図るため地域の医療機関や介護サービスとの水平連携を推進し、地域包括ケアシステムを全面的にバックアップします。また、

新型コロナウイルス対策に向けて万全を期すと共に、ポストコロナに向け、DXを推進します。

- ① 地域に選ばれる病院づくり
- ② スタッフに選ばれる職場づくり
- ③ セイフティーマネジメント（医療安全・院内感染防止）の体制強化

◎介護分野

いつまでも安心して在宅での暮らしができるように地域包括ケアシステムを全面的にバックアップします。そのためにも各種介護サービスが機能的・効率的に連携できるように、情報の一元化・共有化を図り、業務のDXを推進します。

- ① 地域包括ケアシステムの実現
- ② スタッフに選ばれる職場づくり
- ③ セイフティーマネジメント（転倒転落防止、院内感染防止）の強化

以上の各分野の目標に沿い、例年の如く各部署の数値目標を3月末までに設定します。2023年度も夢と希望を持ってさらに前進しましょう。

オンライン診療における織田病院のこれまでの取り組みについて

医事課 中村典弘

2020年より全国で新型コロナウイルス感染症がまん延したことにより、限定的にオンライン診療の規制が緩和され、オンライン診療に取り組み医療機関が増加しました。当院においても2020年4月よりオンライン診療を本格的に開始しました。感染対策の観点からもオンライン診療のニーズは高く、希望される患者様もたくさんおられました。

導入当初は、ハード・ソフト両面で様々な問題が発生しました。ハード面ではオンライン診療アプリの登録や設定・操作に不慣れでスムーズな診療が出来なかったり、タブレットの通信障害によって通信が途切れてしまったりといった問題が発生しました。またソフト面では、診療科別のオンライン診療日程が決まっておらず非常に効率が悪かったこと、特に高齢の患者様へのアプリ操作説明が困難で時間がかかる、などの問題が浮上しました。これらの問題に対し、医事課と医療秘書スタッフが協力し、アプリ操作に慣れた職員を増やし、Wi-Fi環境を整え、診療科毎の予約管理を行い、「オンライン診療管理システム」を構築しました。また患者様にオンライン機器の操作も丁寧にサポートしていったことで、徐々にスタッフ・患者様共にオンライン診療に慣れ、現在では多くの患者様にスムーズに実施できるようになりました。

2020年4月から2022年12月までの間に5379件にも及ぶオンライン診

療を実施しました。(図1) 昨年度は月平均180件のオンライン診療を行っており、利用者の年齢は全年齢層に渡っており、60歳以上が全体の約6割、80歳以上が約2割と、高齢者の方も多く利用されています。(図2) 最初のアプリ設定・操作説



図1 月別オンライン診療受診者の推移 (2020年4月~2022年12月まで)

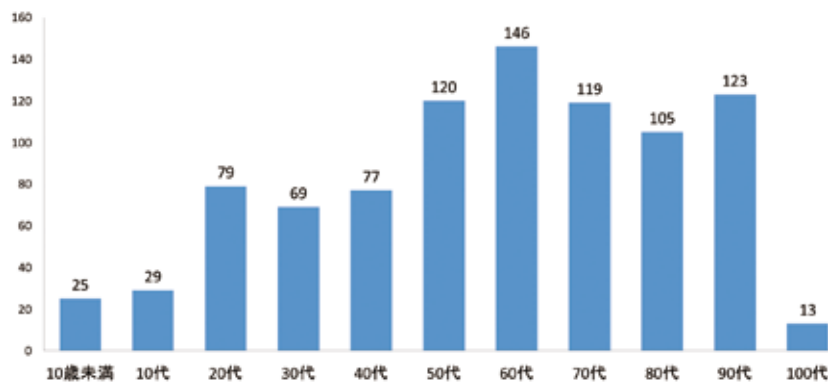


図2 年齢別オンライン診療受診者数 (2020年4月~2022年12月まで)

明時はとても不安がられる方が多いですが、一度行ってみると安心され継続できている方が多いです。高齢の患者様でも家族のサポートがあれば十分に実施可能です。また近年のスマートフォンは鮮明な画像が送れるため、表情や顔色なども詳細にわかり、皮膚疾患もオンラインで診療することが可能です。今後も安心してオンライン診療を受けていただけるように、患者様の声をよく聞きながら改善を続けていきたいと思っています。



CT・MRI・FPD機器更新

診療支援部放射線科 坂田善和

当院では昨年11月から今年2月にかけて、一般撮影の画像処理系統、CT装置、MRI装置の医療機器の更新を行いました。

まず11月に導入されたFPD (Flat Panel Detector) ですが、FPDとは身体を透過したX線を、このFPDで受け取り、デジタル信号に変換することによってレントゲン写真を得る装置です。従来の装置 (CR システム) と比べて、より少ないX線の量で高精細な写真を得ることが

できるようになり、約30〜40%程度の被ばくを低減することができるようになりました。さらに撮影した画像が瞬時にモニタに表示されるので、患者さんを待たせることなく次々に検査を行うことが出来るようになります。

次に1月に導入になったCTですが、従来の装置は検出器の数が64個でしたが、今回の装置は80個に増えました。検出器とは患者の体を透過してきたX線を電気信号

に変えて画像化する装置です。

この検出器の数が多ければ多いほど、1回転あたりの撮影範囲が広くなり、撮影時間が短くなります。具体的には胸部〜骨盤部まで撮影するのに従来の装置では息止め時間が12秒程度かかっていましたが、今回導入した装置はわずか6秒ほどで撮影できます。これは、高齢者や呼吸器症状の患者さんにとってかなり負担の軽減になります。

さらに今回の装置の一番の特徴は、被ばくの低減です。CT画像は高精細な画像を得るためには一定量以上のX線量が必要となり、その分患者さんの被ばくが増えてしまいます。逆に被ばくを少なくするのにはX線量を減らしすぎると今度は画質が低下し、診断に悪影響が出てしまいます。今回の装置ではこのX線と画質の関係を最新の画像処理技術を用いて、低被ばく、高画質を実現しています。具体的には腹部の撮影で50%、胸部においては約70%の被ばく低減が出来ます。

最後に2月に導入になったMRI装置には Deep Learning (深層学習) という機能が備わりました。MRI画像は、検査にかける時間を短縮すると画質が劣化し、検査時間を長くすると動きによるアーチファクトが生じやすくなるため診断に悪影響を及ぼしてしまいます。これらのマイナスイ

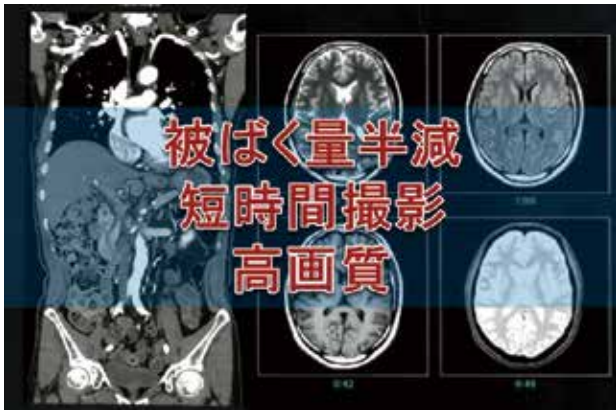
部分を Deep Learning 機構と高速化テ

クノロジーが補完し、高画質・短時間検査を実現させています。頭部検査では従来15分かかっていた撮像が最短5分に、腰椎検査では最短4分となり大幅な検査時間短縮となりました。

今回の放射線機器更新によって画像検査は大幅な被ばく低減と時間短縮が実現しました。従来の装置よりはるかに進歩した性能を、十分に診療に活かせるようにしていきたいと考えていますので、院内のみでなく地域の先生方にもぜひご活用いただきたいと思っております。



新CT装置 2023年1月18日稼動



新MRI装置 2023年2月13日稼動

感染防止集合教育

薬剤師 緒方 良彦

昨年11月に感染防止委員会による集合教育を開催しました。今回は初めてのオンライン(オンデマンド)開催となり、録画した講演スライドを、院内情報共有ツールとして用いているLINE WORKSに添付し配信しました。今回オンライン開催としたことで、従来よりも多くの方に視聴していただくことができました。現地開催だと場所や日程の関係で一度に集まれる人数に制限がありますが、オンデマンドでは受講するタイミングを視聴者が選べるので、より多くの方が参加することが可能となりました。また、オンデマンドにはいつでも一時停止・再開できるという利点があります。不明な点や疑問点があったときに、一時停止や巻き戻しをしてじっくりと聴くことができるので、スライド作成時に図や表を多用し1ページ1テーマで作成するなどの工夫をすることもできました。今回LINE WORKSを用いたことで、全職員への講演スライド一斉送信、視聴の有無の確認、研修内容に関するアンケートの自動集計等を効率的に行うことが可能となり、昨年までと比べ、時間と手間を大幅に削減できました。



です。やや専門的な内容となってしまいましたが、それこそオンデマンドの特性を活かしてじっくりと聴き込むことで理解が得られたのではないかと思っています。今後ウイルスの変異や新たな株の出現による、ワクチンや治療薬に対する耐性化に対抗するために、新たな治療薬へと治療方針が変わっていく可能性が大いにあります。どの分野でも言えることですが、昔はこうだったのに、何で今はこうなの?という潮目の移り変わりが新型コロナウイルス領域では特に早いように感じます。このスピード感についての発信を行うことが感染防止委員会の大きな役割だと感じています。

BLS (Basic Life Support) 研修について

看護部 西岡 葉子



BLSとは、心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置のことで、医療従事者に限らず誰でも実施できる方法です。心肺蘇生やAEDを用いた除細動など救急隊や医師に引き継ぐまでの間に行う応急処置になります。倒れている人を見つけたら、①人を集めつつ ②意識・呼吸の確認 ③胸骨圧迫(1分間に100-120回のスピードで5cm深く沈むように) ④AEDが到着したら胸部に張り付け解析を待ち ⑤ショック ⑥胸骨圧迫を繰り返します。BVM(バググバルブマスク)があれば胸骨圧迫30回に対し2回の人工呼吸を行います。「心肺停止状態の患者に遭遇した際、感染に注意しながら冷静かつ迅速に対応できること」を目的として、看護師特定行為修了者が、半年かけて病院全職員を対象に少人数ずつ研修を実施しました。

今回の研修では、今までと違い人形とアプリをリンクさせながら実技を実施しました。元々は毎年実施していたので、改めて指導・訂正する必要はありませんでしたが、胸骨圧迫のスピードや深さを実感しながら行うことで修正する事ができていました。BLSは人の生死に直結します。実際の現場でできるか不安や恐怖心を持つ人もいるでしょう。しかし指導者として今回の研修を振り返り、全くできないという人はだれ一人いませんでした。万が一病院外で遭遇した場合でも命を繋ぐ行動ができると思います。BLSは救命のチャンスであり、患者さんの社会復帰にも大きく影響します。今回の研修では覚えていて損はない多少のエッセンスも加えて指導をしています。病院に勤めている者として、自身の糧となるはずで。

第27回 ゆうあい研究発表会 ～QC発表～

QC委員会 副委員長 太田安幸

令和4年度、第27回QC発表会を11月に開催しました。本年は病院とゆうあい、合計24題の発表を行いました。昨年同様、事前に録画した発表をyou tubeでオンデマンド配信し、全職員の情報共有ツールであるLINE WORKSを用いて視聴者（職員限定）の評価、アンケートと質疑、集計を実施しました。オンデマンド形式は対面での臨場感には欠けませんが、聞こえにくかったり、よく分からなかったところはスライドを何度も見返す事ができるため、職員が熱心に活動した内容を深く理解する事が可能となりました。

法人のQCサークル活動は、これまで一度も途切れることなく27年目を迎えました。様々なQCの手法(QCストーリー)利用、分かりやすいスライドの作成、グラフや絵図・アニメーションの工夫など、発表会を重ねるごとに成長している姿が確認出来ました。

今回のQC発表に向けて、スライドや原稿の作成に関わった人、初めて演者として人前で発表した人など、各人がQC活動を経験した事で自己の成長に繋がったことと思います。また、法人内の職員が、仲間のサークル活動の成果を、観る、聞く、知る事が出来、皆で共有する事ができた有意義な時間でした。今後とも、QC活動等を通じて祐愛会グループの更なるレベルアップに取り組んでまいります。宜しくお願いします。

最後に今年度優秀賞に輝いたチームの紹介をいたします。評価基準は、視聴者による得票数と審査委員による評価の合計得点で4題の優秀賞を選び、最高得票数だった1演題を特別賞として表彰しました。



小規模多機能サテライトゆうあい 堤 彩夏

今回はこのような素晴らしい賞をいただきありがとうございます。

ひやりハットの提出を定着することから、取り組み活用することへ繋げることの重要性がわかりました。今後も、ヒヤリハットを活用し利用者様・職員共に安心して過ごせるように取り組んでいきたいと思ひます。



小規模多機能ホームゆうあい 山口 由華理

この度はこのような賞をいただきありがとうございます。

「利用者様の施設での様子をご家族に伝えたい。いろいろ表情の写真を使った新聞発行をしよう!」と考え取り組みました。デジタル化が進む中、手書きの新聞の温かみを評価していただき嬉しく思ひます。今後もご家族にたくさんの笑顔を届けていこうと思ひます。コロナが落ち着き、マスクなしの笑顔が見られる日を心待ちにしております。



外来・手術センター 河本 健太郎

今回受賞できたことを感謝しております。

AI問診を活用することで、時間短縮につながるだけでなく、問診の統一性や診断への有効活用にもつながります。

「AI問診」を活用しながらも、人と人の触れ合いを大切に業務に臨みます。

今後も「愛(AI)はそこにあるんか。」を心に刻み外来業務に邁進していきます。この度は誠に有難うございました。



薬剤科 緒方良彦

この度の受賞を光栄に思っております。薬剤科のテーマは「新型コロナウイルス感染症治療薬パキロピッドの処方状況の改善」でした。このテーマは薬と薬の相互作用による影響が、治療を行う患者さんにとどこまで許容されるかを判断するものであり、これは薬剤師の職能・専門性を活かす随一の取り組みでもありました。

今後も、専門性を発揮できる喜びを胸に抱き、ふだんの業務をより良くしていく姿勢を保っていききたいと思ひます。



4階病棟 吉村 あゆみ

このような賞を頂き、誠にありがとうございました。今年の取り組みを継続していく事で、一人ひとりの患者様の思い、意向に沿った看護が提供できるよう、病棟全体で取り組んでいききたいと思ひます。



ゆうあい通所リハビリテーション 山口 仁

令和4年12月10日（土）19：00より祐愛会忘年会が開催されました。今年度も、新型コロナウイルス感染対策としてzoomを利用したオンラインでの開催となりました。忘年会参加者には鹿島市内の5つの飲食店から様々なお弁当が用意され、各々自宅で堪能された事と思います。



zoom忘年会は伊山院長の挨拶・乾杯から始まり、QC活動発表会優秀部署表彰、SAGATOCO登録者で1日8000歩以上の職員の紹介、忘年会恒例の大抽選会、織田理事長の挨拶、至慈会西山理事長による閉会挨拶の順で進行されました。

QC活動はどの部署も素晴らしい取り組み内容で、優秀賞4題、特別賞1題が表彰されました。次に、職員の健康づくり推進活動の一環としてSAGATOCO登録者の中から1ヶ月100万歩以上歩かかっている職員や、ダイエットに成功した職員等が紹介され、全職員に一日8000歩のウォーキングが奨励されました。大抽選会では佐賀牛・鹿島市日本酒セット・商品券などの豪華景品を準備してもらいました。モニター越しに参加者の一喜

一憂する姿を見る事ができ、大変盛り上がりました。今回のzoom忘年会には300名以上が参加されました。忘年会会場のモニターには、子供さんと一緒に参加された方、仮装して参加された方などが映し出され、zoomでのイベントをそれぞれの形で楽しまれている様子が伝わってきました。

新型コロナウイルスによる様々な制限がある中で、緊張感を持って医療・介護を提供してこられた職員の皆様への労いの気持ちを込めた忘年会の開催でしたが、楽しい企画・運営を下さった実行委員の皆様、zoom忘年会に参加して下さった職員の皆様、本当にありがとうございました。次年度の歓迎会や忘年会がどのような状況下で開催されることになるのかわかりませんが、リアル・オンラインに関わらず祐愛会職員の活力になる様な企画をみんなで考えましょう。



SAGATOCO

祐愛会では、「職員1人ひとりが心身ともに健康で、働きがいを持って安心して働ける環境の構築」を目標として、心と身体健康づくりに取り組んでいます。2021年、2022年と連続して「健康経営優良法人（大規模法人）」の認定を受けました。活動の一環としてSAGATOCOを利用したウォーキングを奨励しています。SAGATOCOとは佐賀県公式のスマートフォンアプリで、歩数計や歩行総距離の計測・目標歩数達成率・達成日数が表示できるようになっており、運動の成果をポイント化して、貯めたポイントで景品やサービスに応募できる制度です。今年度たくさんの法人スタッフがこのSAGATOCOアプリに登録し、健康づくりのウォーキングを頑張っています。1日8,000歩のウォーキングを毎日続けることで、脂質異常症や糖尿病、高血圧の予防につながるとされています。当法人には1日平均8,000歩越え（距離にして約6km）の方が24名おられました。皆さんも1日8,000歩を目標に健康を維持し、健持康寿命をのばすことを心がけましょう。



祐愛会 SAGATOCO 利用者のコメント

SAGATOCOアプリを使い始めた事がウォーキングを始めようと思ったきっかけです。頑張って歩いた結果が目に見えて分かるので、少しでも歩数を伸ばそうとついつい遠くまで足を運んでしまいます。今では歩く事が日課で友人と共に楽しんでウォーキングをしています。また運動した分ポイントが貯まる所も魅力のひとつです。これからも上位を目指して頑張って歩きます。

S・Hさん

これまでも何度もダイエットに挑戦してきましたが、飽きっぽい性格で何をやっても続かなかった私ですが、今の所このSAGATOCOアプリをダウンロードしてからはウォーキングを3ヶ月続けられています。

P・Qさん

鹿島は海も山もあり自然豊かで、四季折々の景色を楽しみながらウォーキングを楽しむことができます。旭ヶ岡公園や祐徳稲荷神社、蟻尾山公園などを周るコースが私の定番のウォーキングコースです。これから季節も暖かくなってきて、梅や桜を見ながら歩くのが楽しみです。

Y・Sさん

11月 1日平均8,000歩越え 24名

順位	氏名	歩数
1位	Ors	1,013,159 歩
2位	おかりょ	652,505 歩
3位	11111	577,817 歩
4位	ノーパフ	463,336 歩
5位	ジャッキー	462,827 歩
6位	ringu	458,742 歩
7位	マズル	377,964 歩
8位	キコ	366,186 歩
9位	のりまきん	350,264 歩
10位	マツ	317,002 歩
11位	キヨイナリ	316,999 歩
12位	ゆりか	310,202 歩
13位	よしこ	301,265 歩
14位	MANG	297,973 歩
15位	ル	273,083 歩
16位	Tokuma	270,225 歩
17位	こんぞ	267,717 歩
18位	いんこ	267,110 歩
19位	もも	263,603 歩
20位	ウォーキングマン	262,987 歩
21位	KAMBA	259,558 歩
22位	ひかり	255,061 歩
23位	チカ	255,324 歩
24位	かみ	252,013 歩

ついに登場! 佐賀県公式ウォーキングアプリ

SAGATOCO

~ 佐賀はよかところ、とことこ歩こう ~

毎日のウォーキングが楽しくなる
ポイントがどんどん貯まる
スタンプラリーなど
イベントが盛りだくさん
ポイントを貯めて協力店で
サービスを受けられる

新成人おめでとう

- ①成人を迎えた感想は
- ②やってみてみたいことは
- ③自己PR

ケアコートゆうあい 1名



松本 友哉

(1階療養棟)

①今まで以上に大人としての自覚と責任を持った行動をしていきたいです。

②専門的な資格がとれるように勉強を頑張りたい。

③誰にでも優しく接し、何事に対しても粘り強くできることだと思います。

織田病院 3名



古田 紗加

(栄養科)

①成人式を迎えるまであまり実感が無かったけど成人式に行ったらやっと実感が湧いて大人の仲間入りをしたんだなと感じました。

②コロナであまり友達と会えていないのでコロナが落ち着いたら友達とお酒を飲みに行きたいです。

③今年は調理師の資格を取得するために試験を受けるので実務と筆記の勉強を頑張って調理師免許を取れるように頑張りたいと思います。



中村 華純

(医事課)

①成人を迎えることができたのは、両親はじめ、たくさんの方に支えてもらったおかげです。その感謝を忘れずに、素敵な大人になりたいと思います。

②いろいろなことに挑戦をしたいと思います。

③患者様に寄り添い丁寧な対応をこれからもしていきたいと思えます。これからも、背一杯頑張りますのでよろしくお願ひします。



多久島 蒼空

(医事課)

①実感はまだありませんが、今まで支えてくださった家族や周りの方々に感謝したいです。また、社会人として責任感を持ち行動していきたいです。

②まだ決まってはいませんが、いろいろなおことに挑戦し、成長していきたいです。

③何事にも一生懸命に取り組んでいきたいです。よろしくお願ひ致します。



鹿島市西部中学校インターンシップ

2022年11月1日、鹿島西部中学校2年生4名が、織田病院でインターンシップ(職場体験)を行いました。

職場体験に入る前に抗原検査を行い、現場スタッフと同様、N95マスクにアイシールドと、感染対策も万全に行い、看護師・放射線技師・リハビリセラピストの体験を行いました。

今回参加してくれた4名のなかには将来医療の道を目指したいという生徒もいて、インターンシップの最後には、「病院で働く職業の人をたくさん知れた。」「感染対策など、とても大変だと感じたが患者さんと話せて嬉しかった。」と、とても嬉しい感想が聞けました。

将来、医療の道に進まれたら、織田病院で一緒に働ける日が来ると思いますね！



編集後記

リハビリテーション科 鬼村妃世

コロナ禍になって3年が経過し、家で過ごす事に慣れて運動不足になってしまいました。最近、ダイエットも兼ねて「Core Tube」をみながら筋トレをしたリ、SAGATOCOアプリを活用してウォーキングしたりして健康を心掛けるようになりました。まだ結果は出ていませんが、継続は力なりということで頑張っています。続けていきたいと思えます。運動以外には、「人が集まる場所を避ける趣味」として3年前からイカ釣りを始め、ずいぶん道具も増えました。イカ釣りの醍醐味は、釣り自体ももちろんですが、釣れたイカで作る最高に美味しいお好み焼でしょう。

今年こそは、コロナが終息して制限のない生活が送れますように！皆様が健康で過ごせますように！体調管理に十分注意しながらお過ごしください。

